

平成25年度 鳥取市小学校教育研究会情報教育部会授業研究会

1 日 時 平成25年11月11日(月) 13:30～

2 授業者 鳥取大学附属小学校 谷田 健司 教諭

3 教科 社会科

4 学年 第3学年

5 学習指導案 別紙1

6 授業研究会 (参加者15名)

(授業者自評)

詳しくは、別紙2参照

- ・スーパーマーケットの売り場の様子を、iPadにより読み取る。
- ・クロス販売・関連陳列などの工夫を、NHK学校放送により学習する。
- ・パソコン室でスカイメー等を使うと、1人1台での資料視聴が可能である。
- ・電子黒板の活用により、直感的に説明できるよさがある。また、見つけた部分をPDFで保存できる。
- ・iPadを使いながら自分の意見をまとめ、説明する力をつけていく。

(意見交換)

- ・本校では、iPadの使用を1ヶ月前からである。機器を大事に扱うこと、慣れることが大事である。
- ・iPadの効果として、止められる、巻き戻せることがよい。また、タッチ操作は感覚的使える。
- ・大きなモニターについているデジタルカメラと考えればよい。
- ・動画であるが、大きな静止面の集まりだと考えると、4分でもすごい情報量である。どこをどう見せるのか。それが見学へとつながる。
- ・何がスパーの工夫なのか。

関連商品

ポップ表示 — 3年生としては、3つくらい

献立メニュー

個別売り 見学後、動画をあと2分たして、

きれいな など さらに学ぶ。

- ・今日のiPad、電子黒板の使い方はベストだと思うが、やはり情報量が多かったのでは。動画は2分でも十分である。また、工夫も2つにおさええてはどうか。
- ・2分は子どもをあきさせない量である。最初の2分で、3つの工夫（じげ・彩り・リサイクル）が見つかると。
- ・授業だけでなく、いつでも繰り返し見て気づいてほしい。
- ・昔は、スーパー・コンビニ・町の小売りにグループごとに見学に出かけ、調べたことを発表していた。見学後がメインだった。その後、授業の作り方が変わってきて、探求的になってきた。
- ・「なぜ、このような配置になっているのだろう？」というところを大切にしたい。



- ・社会科の授業で、古典的なもの（風呂敷）を使いながら、ICT（メール）も活用する。
- ・メールがうまく届かなかったので、事前の試しが大切である。
- ・NHKの教材だけでなく、身近にある題材を見せることができている、よかった。
- ・操作する子どもも固定化されていく。それが差につながる。
- ・そうならないためにも、教科によって操作する子どもの担当を決めている。
- ・子どもたちが関心を切らさず、次々と課題をこなしていたのがよかった。
- ・子どもたちが上手に操作していた。焦点化しすぎないのもよかった。



- ・アップル TV で発表ができる。モリックスさんが技術支援してくださるので、市教育委員会を通すとよい。
- ・授業の前半をもう少し短くすべきであった。
- ・個人はノート、班はワークシートというようにうまく活用したい。
- ・見学の際、iPad をもって見学させる。探検バックにきちんと入れる。動画や写真のとり方として、お客さんにはとらないなど、ルールを徹底する。

- ・iPadは現在、価格が高い。しかも、3年で電池がだめになる。電池交換は有料で高い。（指導助言）鳥取県教育センター 研修企画課 小林 正樹 指導主事
- ・特別むずかしいソフトを使っていない。子どもは簡単にiPadを操作する。大変なのは、教員である。



- ・5年前、「ICTを使って」といっても、ふり向いてくれなかつた。2年前から県教育委員会もICTを推進するようになり、時代は大きく動いている。中心は、iPadである。
- ・電子黒板とタブレットを使う。タブレットを使うとよいと言いつた。これからもっと研究されるところである。
- ・タブレットを使った授業とは、味はともよいが食べ方のわからないフランス料理ではなく、家庭料理である。
- ・まず、必要なことは「学習規律」である。iPadのような興味深いものがあると他がでないではない。
- ・ICTは、「道具」「支援ツール」であり、「のこぎり」と一緒である。



・ICTの効果

- ①図・動画での大量情報
- ②時間短縮
- ③即時に発表
- ・特別ではなく、ふだんの授業に電子黒板がおいてある。
- ・子どもたちが使うタブレットPCのことは、「①記録②すぐに確かめる③発表する」の3つである。実践してほしい。

7 反省

今年度も授業研究会を実施でき、活動を積み上げることができた。今年度は、社会科の授業における、iPadと電子黒板の効果的な活用の仕方について、研修を深めた。授業をしてくださった谷田教諭と3年1組の子どもたち及び会場校として協力してくださった鳥取大学附属小学校の先生方には感謝したい。

さて、情報社会に主体的に対応できる力を育てるためには、子どもたち一人一人が交流活動に入る前に、資料等から必要な情報を読み取り、根拠に基づいた具体的な自分なりの考えをもつことが重要である。今後、この部分でのiPadの有効活用の方法について検証していく必要がある。

今回の成果と課題を受けて、来年度以降も研究実践を積み重ねていきたい。

第3学年1組 社会科学学習指導案

平成 25 年 11 月 11 日 (月) 5 校時

教諭 谷田 健司

- 1 単元名 大単元 人びとのしごととわたしたちのくらし (30 時間)
小単元 スーパーマーケットではたらく人 (13 時間)

2 小単元について

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年において

- (2) 地域に人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。
- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

に位置づけられている。

ここでは、学習の内容として「地域の人々の生産や販売」、目標として「それらの仕事に携わっている人々の工夫」を挙げている。具体的な学習の対象として「地域には生産や販売に関する仕事があり、自分たちの生活を支えていること」「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」、学習の方法として「見学したり調査したりして調べる」を挙げている。

現在、社会経済や消費者のニーズの変化、モータリゼーションの進行、大型店に対する規制緩和に伴い、大型店やコンビニエンスストアの進出など、地域の小売業にも大きな変化が見られる。加えて大型店同士や小売店同士の競争もますます激しくなっている。このような現状の中で、販売に携わる人々は消費者ニーズに合わせて、安売りや商品の種類の増加、品質管理の徹底、さまざまなサービスなど、客を集めるために数多くの工夫や努力を行っている。一方消費者にとっては、自分たちのライフスタイルに合わせて店選びや商品選びができるようになり、便利な生活に結びついている。

本単元では、地域にあるお店の見学や調査を通して、販売に携わる人々が消費者のニーズに合わせて様々な工夫や努力を行っていることに気付かせていきたい。また、一人一人の身の回りの消費生活に目を向け、その問題点に気付き、自分にできることを自分なりの方法で解決していこうとする意欲や態度も身に付けさせたいと考えた。

本学級児童は、身のまわりの事象に関心を持ち、個人差はあるものの自らの課題意識をもって取り組もうとしたり、写真やパンフレット、本やインターネットなどの資料を使って調べることの楽しさを感じたりしている。また、「のこしたい、つたえたい 鳥取しゃんしゃん傘踊り」の学習の中で、博物館の見学や傘踊り体験から課題を見出し、課題を解決するために他地域の様子と資料を通して比較・関連しながら考え、意欲的に取り組む姿が多く見られた。さらに、「スーパーマーケットではたらく人」の学習の導入後、買い物物の経路やどこのお店に行くかアンケートを行った。その結果、自分で買い物をする経験は少ないものの家族と一緒に車で買い物に行くことが多いことや買い物の目的や価格や利便性が大型店論や近所のスーパーマーケットなどお店を選択して活用していることがわかった。しかし、店舗の規模に関係なく、そのお店でも販売に携わる人々が消費者のニーズに合わせて様々な工夫や努力を行っていることに気付いている子は少ないと思われる。そこで、今までの買い物物の体験や実際に地域のお店を見学して学んだことを手がかりとして、販売にかかわる人々の工夫や努力を捉えさせしていきたい。さらに、他者との関わりの中で課題を解決していける

ような魅力のある教材の発掘・資料の提示の仕方を工夫しながらおこなっていききたい。

指導にあたっては、スーパーマーケットの写真や動画の資料をもとにして、お店の人はお客さんが買い物しやすくするためにいろいろ工夫を行っていることに気づかせ、次時のマルイの見学への意欲を高めていきたい。そのために、まず普段見慣れているスーパーマーケットの店内を見取り図で見たり、よく見かける関連販売の売り場の意味を考えたりして、無意識から意識化へ繋げていく。その際、実物を用意して近くにあり、時と遠くにある時ではどのような違いがあるか具体的に考えたり、お店の方の解説をビデオで見たりする活動を取り入れていく。さらに、他者との関わりの中で課題を解決していく仕掛けとして、班で店内の動画を活用して、お店の工夫を見つめる活動を取り入れる。お店の工夫を見つめる際に、店内の動画を班ごとのiPadに入れて視聴させ調べるようにする。班ごとでiPadを活用して視聴させることで、容易に一時停止や繰り返し再生することができ、資料の深く見ることや班の友だちとの活発な意見交換へ繋げることができると考えたりする。また、学級全体での発表でも、iPadと電子黒板の提示やチャプチャ機能を活用して提示することで、自分たちの考えを画面に書き込みながら説明したり、自分たちの発表や他の班の発表画面に、意見を書き加えたりしながら他者との関わりを深めたい。

最後に、バックヤードや店外の写真を掲示することで新たな視点の提示やスーパーマーケットの見学への意欲へ繋げていくようにしたい。

3 単元の目標

地域にある商店に関心をもち、自分たちの生活のかかわり、仕事の特徴及び国内の他地域のなどのかかわりについて調べ、商店に働いている人々の工夫について消費者の願いと結び付けながら考えるようにする。

4 評価の観点と評価規準

[社会的事象への関心・意欲・態度]

販売に携わる人の様子に関心をもち、自ら働きかけて意欲的に調べようとするとともに、自分の生活の中で目的に合わせた買った買物の仕方を工夫しようとする。

[社会的な思考・判断]

販売に携わる人は、消費者の願いに合わせて工夫していることに気づくことができるとともに、消費する側も目的に合った買った買物の仕方を工夫していることに気づくことができる。

[観察・資料活用の技能・表現]

聞き取りなど働く人の様子を具体的に観察・調査し、見学メモやカードなどにわかりやすく表現することができ。

[社会的事象についての知識・理解]

販売に関わる仕事にはそれぞれ特色があり携わる人々は販売の工夫や努力をしていることがわかるとともに、消費する側も目的に合った買った買物の仕方を工夫していることがわかる。

5 単元の計画 (全13時間)

第一次 スーパーマーケットの人がどんな仕事をしているか予想しよう。

1時 身の回りには、いろいろな種類の仕事があることに気づき、スーパーマーケットで働く人に興味をもち話し合う。

2時 スーパーマーケットの店内の様子から、お店の人はお客さんが買い物しやすくするためにいろいろな工夫を行っていることに気づく。・・・(本時)

3時 スーパーマーケットを見学する計画を立て、質問を短冊に書いてまとめる。

第二次 スーパーマーケットを見学して、お店の工夫を見つけよう。

1・2時 学校の近くのスーパーマーケットを見学・取材をする。

3時 見学してわかったことを見学の視点ごとに分類しまとめる。

4時 商品はどこから来るのか調べ、産地を日本地図や世界地図に貼って整理する。

5時 いろいろな人が来やすく、買いやすくするためにどのような工夫を行っているかまとめる。

第三次 お店に来る人は、どこから何の目的で来るのだろう。

1・2時 来客が店を選ぶ観点を、買い手で取材したことをもとに事前に予想し、インタビュをして調べる。

3時 調べたことをもとにして、家と店舗との距離、利用する交通手段などの諸条件によって、客が店を選んでいることがわかる。

第四次 スーパーマーケット以外の近所のお店では、どのような工夫をしているのだろう。

1・2時 自分の近所のお店の工夫を見つけて発表し合う。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

スーパーマーケットの写真・動画の資料をもとにして、お店の人はお客さんが買い物しやすくするためにいろいろな工夫を行っていることに気づくことができる。

(2) 準備物

番号のみの売場の配置図(児童用・掲示用)・スーパーマーケットの店内の動画商品,iPad
商品表示の看板・関連販売の棚・バックヤードの入り口・店外等の画像、工夫発見ワークシート

(3) 本時の展開

学習活動	教師の意図 (○) 支援 (・)
<p>1. スーパーマーケットの見取り図と商品案内の看板を提示し、何を表しているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たかさんの四角に番号がある。 ・この看板は見たことがある。 ・スーパーマーケットの店の中じやないのかな？ <p>2. 商品案内の看板の意味について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに何があるかよくわかる。 ・買い物がいやすくなる。 	<p>○2つの実物を提示して、本時への興味を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式やスーパーマーケットからの挑戦状を提示することで、資料を手がかりとして考えることを意識させながら、本時の興味を高めたい。 ・お店の中の動画を見ることで、マルイの売り場の見取り図であることを知らせる。 ○商品案内の看板は、お客さんが買い物をしやすくなるためのお店工夫であることを確認する。 ・お店の工夫であること気づかせるために、マルイの店長さんの説明を提示して確認する。

マルイのお店では、お客さんが買い物をしやすくなるためにどんな工夫をしているのだろうか。

3. お店の中で買い物をしやすくなるためにどのような工夫をしているか考える。

- (1) 関連販売している売り場の写真から考える。
 - ・お店の人が置き間違えたのかな？
 - ・お客さんが、ついつい買ってしまいそう。
 - ・速くにとりに行かなくてもいい。

(2) 店内の様子に隠れているお客さんが買い物をしやすくなるための3つの工夫を、班で話し合い、「工夫発見ワークシート」に記入する。

- ・野菜コーナーに旬の野菜って書いてあるよ。
- ・値段の字が大きくて赤い字で書いておいて見やすいよ。

4. 班で発見したお店の工夫は、電子黒板を使いながら発表をする。

- ・きれいいにおいしそうに並べてある。(陳列)
- ・お買い得品がわかりやすく置く。(エンド)
- ・お客の要望にあわせて個分け販売をする。
- ・料理の手助けや料理の仕方を表示する。
- ・作り立てのものを並べる。
- ・広告品と通常品の札の色を変える。(ポップ)
- ・関連商品を並べて販売する。(クロス販売)
- ・じげのコーナーの設置をする。
- ・果物を入れてすぐの場所に設置する。
- ・リサイクルコーナーを設置する。

5. 学習のまとめをする。

6. 次の活動について知る。

○写真や映像資料をもとにして、お店の人はお客さんが買い物をしやすくなるためにいろいろな工夫を行っていることに気づく。

- ・並んでいる場合と離れている場合でどのような違いがあるか実物を提示して考えさせことで、買い物をしやすくなるための工夫であることに気づかせる。
- ・ほかにも買い物をしやすくなるための工夫があることと気づかせるために、はじめに見たお店の中の動画と関連して考えるように助言する。

・お店の工夫であることを、マルイの店長さんの説明の動画で確認する。

・動画資料から気づいたことで止めたり、繰り返し再生したりできるように、班のiPadの中に店内の動画を準備しておく。

・目的意識をもって調べ活動を行わせるために、目標の数を伝えてから活動させる。

○、お店の人が行っているお客さんが買い物しやすくなるための工夫について、他の班の意見と比較・関連させながら考えさせる。

・映像から見つけた事実と買いやすくと考えた理由を区別して考えるように、板書を工夫したり、再度「問い返し」の発問を行ったりする。

・見つけた事実を全体で共有しやすくなるために、各班で見つけたiPadの静止画を電子黒板に映して電子ペンで書き込み等を行いながら発表させる。

・班ごとの意見を関連して考えさせるために、班の発表をキャプチャして保存・掲示して置き、同じ意見の場合は、画像に付け足すようにする。

○本時の課題にたちかえり、発表の内容や話し合ったこと・板書などをもとにして、買い物をしやすくなるためにどんな工夫をしているかまとめる。

○バックヤードの扉の写真や駐車場の写真から、ほかにも工夫があることを伝え、スーパーマーケットの見学をする目的や意欲に繋げていく。

ほかにはどんな工夫があるのかな？ マルイを見学してみよう

(本時における情報機器の活用)

研究主題

情報社会に主体的に対応できる力を育てる情報教育のあり方

社会科の授業における、iPad と電子黒板の効果的な活用の仕方について

「自らが調べ、他者とかかわり再認識するための ICT 活用」

平成 25 年 11 月 11 日

鳥取大学附属小学校 谷田健司

- 1 小单元名 社会 「スーパーマーケットではたらく人」
- 2 本時のねらい
 - 身につけてほしい社会的な見方や考え方
 - ・販売に関わる人々は、消費者の購買意欲向上やよりよい選択へのサービスを行っている。
 - 見方や考え方として会得するための手段
 - ・自分たちの経験をもとにして、売り場全体の様子から読み取る
- 3 本時のねらいを達成するために
 - 児童が販売に携わる人の様子に関心をもち、自らが意欲的に調べ、他者とかかわり再認識する学び合いの活動を通して、新しい見方や考え方として会得されていくと考える
- 4 ICT の役割
 - 新しい見方や考え方を自らが調べ、他者とかかわり再認識する学び合いを促すため
 - ・・・今までの資料の提示方法や仕掛けに少し工夫したい。
- 5 児童に実態に即した資料・観察方法の工夫
 - 資料・・・(挿絵・ビデオ・画像・NHK 学校放送など)
 - 観察方法 (1 人で観察・テレビ視聴・パソコン室の活用)・・・様々なものが考えられる
- 6 本時の授業を構成する上で様々な選択
 - ①教室の選択 (パソコン室か、教室の授業か)
 - 1人1台での資料視聴・・・注意深く観察する機会と場
 - △全体共有する・・・人とかかわりの意見を深める
 - ②提示方法の選択 (一斉のビデオ提示か、小グループの提示か)
 - iPad を活用する→一時停止・繰り返し視聴、グループや班での意思決定
 - △全体の状況把握がしにくい。
 - 電子黒板の活用→わかりやすく説明する。(見つけた部分を拡大・キャプチャー保存)
- 7 その他・・・iPad は必要？電子黒板は必要だったのか？
 - iPad をどう管理していくか・・・学習支援ソフトの必要性
 - 機器を使うことへの冒険も必要・・・新しい世界が見えてくる